

令和5年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

呼吸器内科

● 喘息で、藤枝市は有名に！

昭和60年に、**全国に先駆けて藤枝市で、『喘息の有病率』**の調査が行われ、**全国で藤枝市の名前が知られること**となった。治療の進歩にて喘息死は減少した。

● がんの死因の中では肺がんが最多

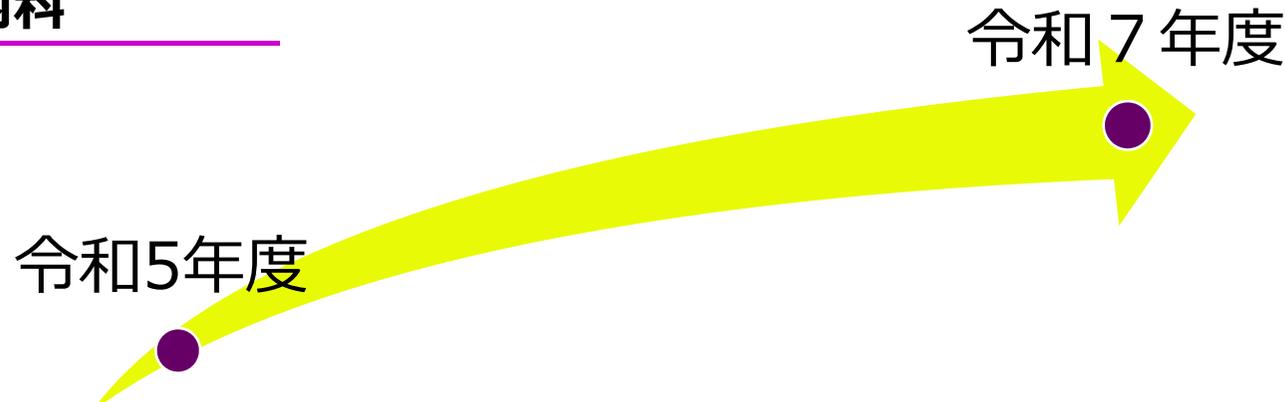
がんは日本人死因の第1位であるが、臓器別では**肺がん**がもっとも**多く**、大きな課題であり、**多職種連携**が重要視されている。

● 間質性肺炎とCOPD注目！

最近では、**間質性肺炎**と**COPD**(慢性閉そく性肺疾患)が、日本人の**死因**順位のそれぞれ**11位**と**15位**であり(令和3年)、**早期発見**と**早期治療**の必要性が叫ばれている。男性の肺がんの多くはこの2疾患より発生する。

中期目標・令和7年度に目指す姿

呼吸器内科



志太榛原地域の呼吸器内科診療の中核を継続

- ・ 肺癌の包括的治療のさらなる充実
- ・ 予後不良な間質性肺炎やCOPDの早期診断早期治療の推進
- ・ 地域医療連携から当地域の呼吸器診療の向上

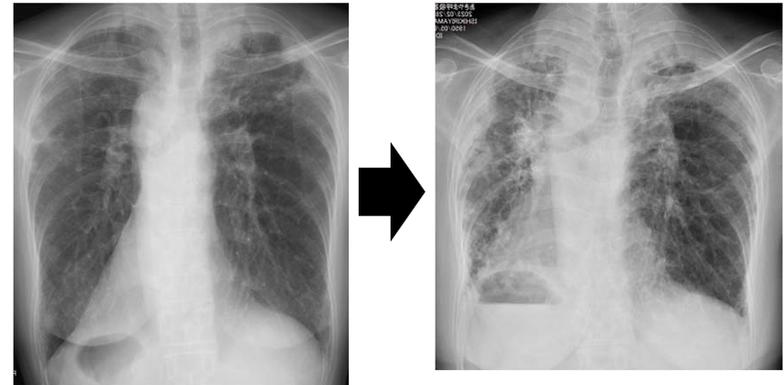
呼吸器内科 **肺癌の包括的治療**のさらなる充実

- 藤枝市の**検診**で、**肺がん**を指摘された方は、**ほぼ全例当院**で診療しています。
- **肺がん治療は多職種連携が標準**
肺がんの治療には、手術、薬物療法、放射線、緩和ケアなどの治療がありますが、**呼吸器外科、放射線科、緩和ケア科、栄養科**などとの**連携はスムーズ**であり、患者さんに良質で、標準的な医療が提供できています。
 - ★ **がん以外の疾患**でも、**リウマチ科**や**リハビリテーション科**などとも**連携**をとって診療にあたっています。
- **肺がんの治験が当科で**
約15年ぶりに、**がんの治験(肺がん)**が当科で行われており、当科の実績などが外部からも評価されている証と考えています。

これからも**がん診療**には力を入れていきます。

● **検診でこの2疾患を“要精検”に**

進行してから見つかることも多く、まだ多くの患者さんが診断されずにいる、この**2疾患**の早期診断のために、当科では**全国に先駆けて**、2年前より**検診でこの2疾患を“要精検”**としています。



★令和4年では、間質性肺炎を132例、COPDを71例発見しています(2疾患で受検者の約**2%**)。

● **地域連携の新患枠を1日2枠増設**

発見した症例を先生方にご紹介いただく際の利便性のため、昨年**から地域連携の新患枠を1日2枠増設**し対応しています。

藤枝市立総合病院 地域医療連携室 FAX054-646-1176

診療情報提供書 (胸部検診 間質性肺炎 COPD)

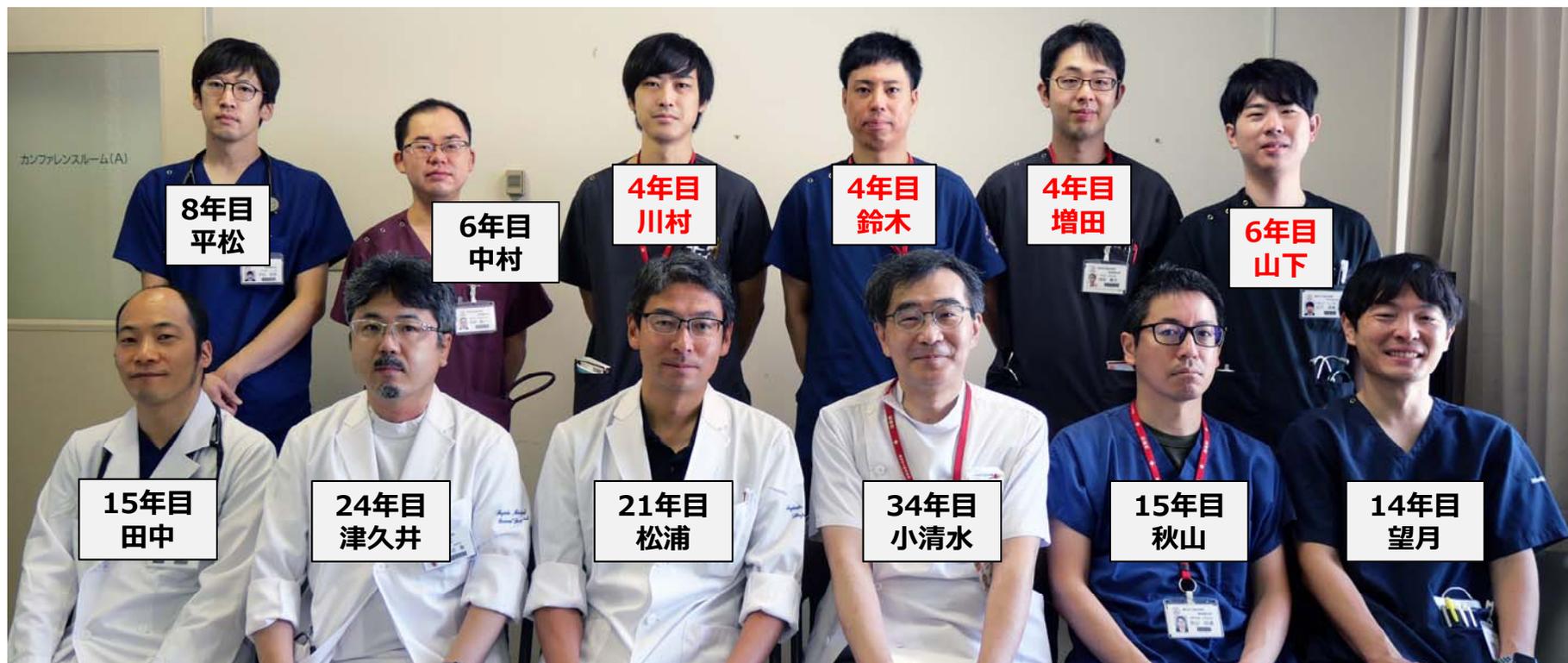
令和 年 月 日

● **市民への啓発**として、市民への講演活動も行っております。



- **医師会の先生方への講習会**
検診での**間質性肺炎**や**COPD**の**見つけ方(読影)**や、**早期診断・早期治療の重要性**に関するものを、以前から定期的に行っています。
- **症例の検討会**
コロナ禍で実現できていませんが、医師会の先生方との**実際の症例の画像**や、**日常診療でお困りの症例の検討会**なども考えております。
- **呼吸機能検査がオープン検査に！**
呼吸機能検査は大切な検査ですが、診療所では手間であったり、お持ちでない先生方のため、**オープン検査**ができるようにしました。(月～金 15時～5時/日)
- **COPDの地域連携**
再度活用を進めていきたいと考えています。

呼吸器内科 当科スタッフの紹介



兼務
緩和ケア科部長

呼吸器内科部長
兼務
教育研修室室長
臨床研究管理室長

副院長（医療安全管理担当）
兼務
医療安全・感染管理センター所長
感染管理担当部長・感染管理室長

赤字は当院で研修

	R2年度	R3年度	R4年度
入院患者数	1551	1583	1512
気管支鏡等検査数	424	357	319

* コロナ後患者数、検査件数の減少あり。

決 意

**当院呼吸器内科は、
志太榛原地区の呼吸器疾患診療の最後の砦
である意識を持ち、
診療を継続・牽引していきます。
幅広く呼吸器疾患患者さんを診させていただきます。
ご紹介また逆紹介の際はよろしくお願い申し上げます。**